

## Simon の朗読

Simon い〜い？「夜を込めて鳥の空音は・・・

Akemi あ！ここからお願いします。

Simon 枕草子。「いとやさし 恋のかけ引きも歌で・・・」「夜をこめて鳥の空音は謀るともよに逢坂の関は許さじ ～心かしこき関守はべり～」夜も空けないうちにxxxxxxのうち、あの函谷関の関守はだましても、私の逢坂の関は開きませんから、お逢いしませんよ。しっかりした関守がおりますからね。」とうのべんの七人(?)の参りたまいての段から。

この段のお話は、「ある日、友人で書家でもある藤原の行成様がいらっしやっただの。すっかり夜遅くまでおしゃべりに夢中になっていたら、行成様が急に“用事を思い出しました”とさっとお帰りになってしまった。翌朝早く、“やあ、鶏の声に急かされて・・・。名残惜しかったです。”と美しい字のお手紙が・・・。そこで、「あら、まだ夜遅くて鶏は鳴いてなかったわ。簡単にはお誘いには乗らないわ。」

中国の歴史書「史記」に出てくる、人がウソ泣きして朝が来たと門番に思わせて関所を開けさせたという偽物の鶏かしら？」とお返事した。

行成様からは“こちらの関所はその函谷関ではなく、あなたと逢うための逢坂の関ですよ。”として、“夜も空けないうちに鶏の鳴きまねをしてあの函谷関の関守をだましても、私の逢坂の関は開きませんから、お逢いしませんよ。”という歌と、“しっかりした番人がいますからね”と書き添えた手紙をお送りしたのよ！」

さて、しばらくは皆さん大好きな百人一首と枕草子の話をいたしましょう。以前、少納言さんのお父様清原のもとすえと、ひいおじいさまの清原深父が百人一首に選ばれているというお話をしましたね。実は少納言さんの周りに百人一首に登場する歌人はたくさんいるのです。

嫌いと言われている人だから、少納言さんと親しくしていた人まで、まずは少納言さんご自身の「夜をこめて 鳥の空音は謀るとも よに逢坂の関は許さじ」からみていきましょう。百人一首の 62 首目に並ぶ上(?)の段xx枕草子にはエピソードがしっかり書かれています。短歌だけだと内容がわかりづらいのですがストーリーで読んでみると少納言さんが恋のお誘いをピシリとお断りしていたのですね！

歌が嫌いと言っている少納言さんが歌を詠む珍しいシーンでもあります。

逢坂の関は人の出入りがたくさんある交通の要所でした。今の滋賀県と京都府の堺にあり、その名前から好きな男女が逢うという意味でよく歌に使われました。「これやこの 行くも帰るも分かれては知るも知らぬも逢坂の関」と蝉丸が百人一首の 10 首目で詠んでいます。

行成が書いたこの xxx われ書は国宝として美術館に飾られています。

Akemi ヘえ、すうごーい！むずかしいこと・・・。

Simon xxxもあって面白い。

Akemi スゴイ、シモン、意味わかった？ねえ？

Simon はあーっ！（考える）

Akemi 清少納言っていう人がね、

Simon うん

Akemi 枕草子っていう、これはね、えーっと、随筆ってわかる？今日思ったこととかをいっぱい書いた日記帳みたいな。そのタイトルなの。枕、枕ってさ、寝るときのものでしょ。草子って、書き留めたもの。メモ帳のことなの。だから寝る前に、枕で、こう、寝ながら書いたよってという意味・・・。

Simon ふん

Akemi すごーい、よく読めるね、シモン！どういう話だったか分かる？何の話だったか分かる？

Simon えーっと。行成っていう人がいて、あの、この人と逢って、夜遅く、翌朝早く鶏の声に急かされて、名残惜しかったですという美しいお手紙が送られて、あら、まだ夜遅くで鶏は鳴いてなかったわ。。（Akemi 笑い）

で、人がウソ鳴きして朝が来たと言番に思わせて、関所をあしえさした（開けさせた）という、偽物の鶏の声かも、かなっと思って、とお返事して、行成様からこちらの関は、しよの（その）函谷関ではなくてあなたしゃま（様）の逢坂の関でしゅよって言われて、夜も明けないうちに鶏の鳴きまねをして関守をだまして、私の逢坂の関は開きませんからお逢いしませんよって言って。。

Akemi 何でそういったんだろう？

Simon さあね？

Akemi あのさ、この人がせっかく・・・あ！

Aubrey (ピンポン)

Simon せっかく、なあにー??

Akemi (ピンポンだ) 訪ねてきてくれて、ずっとしてくれるかなと思ったら・・・(Simon:うん)

Aubrey (ピンポン)

Simon じゅうっというけるのかなとおもってたら？

Akemi 思ってたら、急に用事思い出して、ササッと帰っちゃったんだって！

Aubrey Simon! Open, Please!

Akemi そういう意味。せっかくずっとしてくれると思ったのに、何？なんだよって！っていう意味。怒ったの、ちょっと。

(ぴー) おわり